

廃校生かし 自然教室

桑名市の山あいにある廃校の旧校舎を活用して、子どもたちがものづくりや自然体験できる教室を、同市のNPO法人「子どもアイデア楽工」が開いている。小学校がなくなって活気を失った地域の活性化にもつながっている。

桑名のNPO「アイデア楽工」がっこう

「長い竹みっけ！」
「奥の方に、もっといい竹があるぞ」

11日午前、6年前に閉校した旧多度西小学校の裏山で、子どもたちの元気な声が響いた。10人ほどの参加者が竹林に入って細い竹を切り出し、それぞれ自分の釣りざおを作った。出来上がると、近くの川に行つて釣り糸を垂らし始めた。

教室は2013年10月に始まった。科学、工作、自然体験と内容は幅広い。理事長の山上敏樹さん(58)は以前、鈴鹿サーキットで遊園地の企画を担当していた。「子どもにも既製品を与えるのではなく、自ら考えて学ぶ機会を提供したい」

釣りざお自作「家ではできない」

とNPOを立ち上げた。
「地域を活気づけたい」と廃校を拠点に使い、地域の人たちも田んぼを貸したり、校庭の草を刈ったりして協力している。

いなべ市立員弁西小3年の井口悟匠君(9)は「家の周りではできない体験がいっぱいできて楽しい。地域の人も優しく声をかけてくれる」。四日市市立川島小1年の先久桃香さん(7)は「お母さんに頼んで参加した。自由なところが好きです」と言う。

子どもたちの様子を眺めていた地元の男性(78)は「廃校で子ども姿が減り、聞こえるのは鳥の鳴き声くらいだった。地域に元気が戻ってきたような気がする」と喜んでいった。

山上さんは「地域の協力を得ながら、子どもたちに創造力を身につけていってほしい」と話す。問い合わせは、子どもアイデア楽工(0594・87・7639)。

(小川堯洋)



自作の釣りざおを垂らす子どもたち—いずれも桑名市多度町古野



釣りざおの竹を切る子どもたち